

衆議院議員選挙岩手一区

吉田恭子さん 大健闘！



10月31日投開票が行われた衆議院選挙で岩手1区に立候補した吉田恭子候補は20,300票（得票率11.94%）を獲得し、議席には届かなかったものの大健闘しました。

昨年8月の立候補表明以降、支持者の訪問や街頭宣伝に積極的に取り組み、コロナ対策の強化と新しい日本をつくる4つのチェンジ①命・暮らし最優先の政治、②気候危機打開、③ジェンダー平等、④憲法9条を生かした平和外交、を訴えてたたかいました。選挙戦後半では、10代・20代の反応がよく支持も広がりました。暮らし・平和の問題とともに、特に気候危機打開、ジェンダー平等への提案は未来を担う若者の中に共感の声を確実に広げています。

野党共闘で政権交代を目指す最初のチャレンジ、同盟にとっては要求実現の選挙でしたが、残念ながら自民党の単独過半数、自民・公明・維新の改憲勢力に3分の2を許してしまいました。が、一方、野党統一候補の勝利・健闘も確実に広がり、現在の選挙制度では野党共闘でないと政権交代は実現できないことも明らかになりました。

来年8月には参議院選挙が行われます。みんなで投票に行って政治を変えよう、戦争を起こしてはいけないという思いから出発した野党と市民の共闘を大きく強くすることに全力で取組み、政権交代をなんとしても実現しましょう。

同盟では、「要求実現」の選挙立場から、会員の吉田恭子、国会請願の紹介議員になっている階猛、小沢一郎の3候補に「必勝」の檄文（為書き）を届けました。



発行所
治安維持法犠牲者
國家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山靖夫方
T/F 019-623-8648

▼千田ハルさんを偲んで 釜石支部長・金崎安子
さん
▼『新しき明日をめざして』の感想その8 盛岡市・山田公一さん・工藤和雄さん
▼もりおか歴史散歩の案内 県本部会長・牛山靖夫さん
▼会費納入のお願い

一寸一言

▼自民党単独過半数確保！に目も耳も疑う。政治の私物化、嘘をつき通し、庶民から税を搾り取っている自公政治を救すのか？どうしてノーを突きつけないのか！「野党共闘不発」「連合は共産党との共闘に不快感」などとマスコミがまたぞろ野党共闘の足を引っ張る。森永卓郎氏が「野党共闘と言つても、消費税について4野党が言つてることがバララ、あれでは投票する気にならない」と書いていた。確かに、政策合意した中身がもつとわかりやすくインパクトが強くなれば響かない。オール沖縄が強いのは、辺野古新基地建設反対の一点で繋がつてゐるからだ。▼投票することに希望も見いだせないくらい苦しんでいる人たちに寄り添い、希望の世界をどう描いて見せるのか、多様性の時代に難しい課題である。東北民教研の会言葉「やさしい言葉で深い思想を」を改めて思い出す。また、今から170年も前に村方、町方、浦方が心を一つに結んで勝利した三閑伊一揆の偉業を改めて思う。▼「投票したよ」「意外な結果だった」初めて支持をお願いした人が先に声をかけてきた。訴えは届いている。諦めずに戦う。一揆の指導者も治安維持法犠牲者も命を懸けて闘つたではないか。「不屈」を改めて心に刻みたい。

(D)

闘いは続く！

千田ハルさんの生き方は 二度にわたる「釜石艦砲」の 体験が基礎に



千田ハルさんの生き方は
二度にわたる「釜石艦砲」の

釜石支部長 金崎安子

千田ハルさんは、全生活を詩人集団「花貌」の編集と語り部として活動してきた。その事がどれだけ大きな役割と影響力を持ったかを思い知らされている。千田さんは、2001年に33年間で331名の艦砲の語りと手記を「花貌」で発表し、釜石市勢功労賞を受けた。2004年、73号をもつて同人誌「花貌」を終刊したが、終戦50年、60年、70年の節目は特に、学校、公民館、PTAや民主平和などの諸団体に「釜石艦砲体験」の取材と講演を依頼され、多忙を極めた。

千田ハルさんは、満97才と7カ月、大病もなく家族に「気をつけて帰つてね」と言つて永眠された。

「平塚らいてう」の会の会長米田佐代子さんから2017年に贈呈された「女性文化賞」を受賞した笑顔が忘れられない。

千田ハルさんの生涯は、戦前、戦中、戦後、何処を取り上げても劇的に思う。それは製鉄発祥の地で生れ、製材所を経営し山中に逃げて助かった。亡くなつた同僚を思うと涙がざぶざぶと出て助かつて良かつたなんて考えられなかつた。「東洋平和」のため、正義のための戦争、聖戦」と小さいころから教えこまれ、大本営発表を信じていたが：

21才、戦後は深くて長い虚脱の毎日から始まつた——戦後の食糧難の苦しみ、どんなに農家や漁家に親戚があれば良いのと思つたことか。広島、長崎のすさまじい原爆の様子も知り、何よりショックだつたのは日本軍隊によるアジア諸国での残虐行為だつた。私たちが受けてきた教育は何だったのか、嘘だつたのだと何より不信感に打ちのめされ、どうしても「眞実」を知らなければと若い一途な気持ちで強く思うよになつた。

1946年1月17日、釜石製鉄所に労働組合が結成。青年部、婦人部も組織された。その時、第二製鋼工場の建物の大きなトタン屋根には艦砲の破片でまるで星屑のように無数の穴が空いていて、なぜか艦砲で死んだたくさんの人々、友人などの「魂」を感じた。これからは、自分達の意志で戦争のない世の中で生きてゆける喜びと共に勉強しなくてはならないと決意した。

戦後二年目、3月8日、県下でいち早く「国際女性デー」の記念行事。今の「サンルート」地点にあつた「錦館」でパネルディスカッショーン。テーマは「女性は解放されたか、否か」パネラーは大学教授、地域婦人会代表と私(ハル)——釜鉄婦人部代表だった。当時「婦人は解放されたか」が流行語になつ

た。

1946年8月、朝日新聞主催、民主・科学講座(盛岡)に一週間の休暇届を会社に出し、友人と米を持参し参加。(宮本顕治、百合子、羽仁説子等の講師)49年10月結婚(労組の文化部長で職場で親しかつた)1950年6月、朝鮮戦争開始、同年10月、釜鉄労働者特別人員整理(レッドページ)53名。夫の耕士さんもその中にいた。

そしてハルさんについて特筆すべき点は、韓国の元徴用工(強制動員被害者)問題で裁判に証人として東京地裁の証言台に立つた事。1967年9月、徴用工の遺骨の問題をめぐり韓国人遺族11人と新日本製鉄(日本製鉄に改名)が和解が成立したのは釜石訴訟が初めてと知る。

それは、企業城下町の宿命でもある『公害』と労働者を物のよう扱う「合理化」によるものだつた。製鉄所の煙突から出る「煤塵」公害、工場から出る汚染水により、日本一の鮭川は魚が獲れなくなる。1960年代から「民族の大移動」と言われる程の「大合理化」。原発から出る核のゴミ捨て場に狙われ、この闘いも町ぐるみの反対運動が繰り返された。千田ハルさんは生涯、これらの闘いで中心的役割を果たされた。

90歳で画家の友人と出版した「ああわが街に砲弾の雨が降る」の絵本は、「花貌」と共に後世に釜石の艦砲体験を伝える文献になつてゐる。

千田ハルさんの97年の生涯は、平和と社会の為に全うされた。心から敬意と感謝を込めて：
安らかにお眠りください。

ああ、わが街に砲弾の雨が降る
釜石を五重も吹き飛ばす千人の命が

平和と社会の為に全うされた。
心から敬意と感謝を込めて：
安らかにお眠りください。

ていた父親が割と自由な人であつたから……と言わられた事があつた。大橋鉱山と製鉄所の労働者たちが1919(大正8)年「労働時間8時間制、賃金15割アップなど十八ヵ条にのぼる要求でストライキに突入。足尾銅山からオルグが入り、大日本鉱山労働総同盟会加盟の演説会を開くと、「入会者はおよそ二千名。当所従業員の三分の一に達しまさに疾風枯葉を捲くの勢いで突進していった。(釜鉄70年史)この時、岩手県知事は衛戍司令官に派兵を要請。青森、盛岡から歩兵工兵各一ヶ中隊(計三五〇名)の出動があつた。(釜鉄70年史)この弾圧によつて一ヵ月にも及んだ争議は終結したが、労働者たちの要求は、ほとんど貫徹された——この争議に千田ハルさんの父親、長兄が関わっていたのか、自宅に弁護士「布施辰治」の色紙があつたとか。夫の千田耕士さんが、レッドページになつた時、父親は何も言わなかつたという。

ハルさんの父親が製材所を始め、建築業もやり、学校、病院を建てたり大きな仕事をしてたが艦砲でやれなくなり、皆がその後バラバラになる。1944年、未婚の女性も『徴用』があり、ハルさんは横浜の古川電気、帰郷してまた徴用が釜石製鉄所。その後、タイプの仕事で釜石製鉄所に就職した。

「手記から」

1945年7月14日、「爆弾は空から」とばかり思つていた

ら軍艦による艦砲射撃。「二時間位で2565発の砲弾」と後で知る。大きな煙で街の方が全然見えない、建物がない、家族はどうしたか、ワード迫つてきて立つていられなかつた。あの生々しい感覚は何十年経つても忘れられない。働いていた製鉄所の事務所は今でもそのままある。特別に頑丈に造られているのだろう。製鉄所の煙突は五本すべてが無くなつていた。家族耕士さんもその中にいた。

1945年7月14日、「爆弾は空から」とばかり思つていたら軍艦による艦砲射撃。「二時間位で2565発の砲弾」と後で知る。大きな煙で街の方が全然見えない、建物がない、家族はどうしたか、ワード迫つてきて立つていられなかつた。あの生々しい感覚は何十年経つても忘れられない。働いていた製鉄所の事務所は今でもそのままある。特別に頑丈に造られているのだろう。製鉄所の煙突は五本すべてが無くなつていた。家族耕士さんもその中にいた。

『新しき明日をめざして』の感想

その8

治安維持法被害市民の

記録、大いに感謝

盛岡市 山田公一

今春出版された書籍を取り、牛山靖夫会長の長年の苦労を途中から知つていただけに感謝した。だが、お病気もご本人から聞かされ愕然とした。私の母方叔父と同じ症状。政党や組合、企業でも関わる人々が大きな事象の歴史を辿るとどうしても無理をする、いやしたくなる。日本の敗戦以後、最初は明るい未来が想定された戦後とは言え、現実には独裁政治とも思える最近だ。それに気が付く人々が増えていくことを願つている。私は長く旧社会党ブロックに縁があり、若い頃は横浜での公社共闘（十公もあつた！）にも縁があつた。

岩手に帰ると南昌荘の催事だったか？加藤善正さんから牛山さんを紹介され、三閉伊一揆を語る会にも加わることが出来た。

先祖が南部藩反主流派奉行だったので関わる世界が広がつた。この頃から治安維持法被害者のことを探しく知ることも。戦前の労農派・非合法とされた共産党の先達に加え、たとえ後に戦

生きぬいた人間集団が刻まれているのだ——そして今、私たちがここにいる。

私は、この30万字という活字に全て目を通したわけではない。さらっと流し読みしたものも沢山ある。でも、もしかして、これから何か語るようなときに必ずこの本を引っ張り出してページをめくることだろう。

私は今は、いわて労働相談センターで相談活動をしているが、かつては国鉄盛岡工場で二十数年働き、国鉄労働組合の役員も経験していた。

94年続いてきた国鉄盛岡工場は、1985年12月1日で廃止され、その後1987年4月1日には、国鉄そのものが分割民営化されてJR（旅客鉄道株式会社）となつた。

牛山さんから「この本の中には鉄道でがんばった人が、けつこういるんだよ」とページをめくり示していただいたときは心が躍り、鉄道マンだった頃が走馬灯の様に蘇つた。だから、この本の中に登場する鉄道労働者に目が行き注目して見るようになつた。そんなわけで、その視点で「機関方スト」と国鉄盛岡工場、「岩手軽便鉄道」に触れ私なりの思い出にふけてみた。

争推進に衣替えした社会大衆党员でさえも監視の対象だったと判明。一風変った所ではカチカチの皇國史観の神職・県北の有名な神社の神職でさえも検挙されていた。神道の教義が異端と判断されたらしい。私は同書にある川村金一郎が父親と同じ大学出身なことから晩年まで知つてゐるが歴史の証人としてもう少し聞いておくべきだつた。興味深いのは川村が共産党初代盛岡地区委員長と同時に盛岡商工会議所常任委員だつたことだが。

新資本主義なる新しい？保守主義が独裁的政権運営を続けないよう変えるべき時である。戦前の立憲労農党・共産党が弾圧されれば、結局日独のようにファシズム政権が始まれば左翼や本来の自由主義者は無論のこと神道関係・キリスト教徒も抑圧されていく。このような世の中にならないよう学ぶためにもこの書は必要だ。

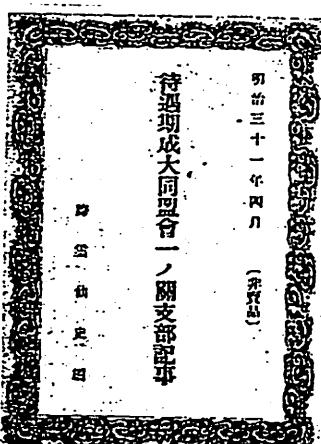
（市民の歴史探究館代表）

新しき明日を信じ、さあこれからも！（上）

盛岡市 工藤 和雄

——「新しき明日をめざして」の中に待遇期成同盟会一関支部記事が登場する。今私の手元に、その「待遇期成同盟会一関支部記事」がある。B5サイズの半分のB6サイズで84ページ立ての冊子で、後ろのページには、毛筆で石田六次郎と自筆のサインもある——そして「本書は、掲題講演会の記念として、石田六次郎所蔵原本を復刻したものです……」と説明がされていて、昭和62年2月27日に八戸市公会堂で開かれた、「日本鉄道機関方スト90周年講演会」のときの記念復刻版である。

冊子の最後に機関方ストについて「『新しき明日をめざして』のなかで、明治31年2月24日夜半、當時日本最大の鉄道会社であつた日本鉄道株式会社（現JR東日本の東北、高崎、常磐線）で機関方・同心得（現在の機関士）500名中400名余りがストに突入するという争議が発生した。この時待遇改善などの檄文をか



いて指導したのが尻内機関方（現JR八戸駅）の機関方石

田六次郎であり、このストライキの激励には、当時の労働組合期成会を指導していた片山潜（夫人たまは八戸出身）が尻内にやつてきた。

「100周年記念講演実録」

（日本労働組合運動発祥 日本鉄道機関方同盟罷工100周年記念誌）より

——明治31年2月というのは、日本労働運動からするとまさに夜明けです。前々年に高野房太郎がアメリカの労働組合同盟（AFL）の日本責任者として帰国し、職工義友会をつくら、さらにおなじ年にアメリカから帰国した片山潜と協力しながら「労働組合期成会」をつくり「職工組合」をつくつたりし、明治30年12月にようやく高野と片山によつて「鉄工組合」が結成されただけですから。

鉄工組合はそのあと、日本鉄道会社の各機関庫にも支部をつくりました。東北本線上では、上野、大宮から順次機関庫に支部ができ、黒磯、福島、仙台は連合で23支部、盛岡工場は26支部ですから、ご当地尻内機関庫は27支部とされたはずです。しかし、この同盟罷業の時点ではまだご当地は結成されません。……このストライキでリーダーだった尻内機関庫の石田六次郎機関方と青森機関庫の池田元八機関方の解雇を撤回し復職を果たしたばかりか、そのあと各機関庫支部代表があつまり『吾党待遇期成大同盟会』を解散し機関手300人、機関助手350人による『日本鉄道矯正会』という労働組合を結成しました。……共済組合的「鉄工組合」とちがい実質的に労働基本権たる団結権、団体交渉権、争議権を実力で兼ね備えた理想とする労

働組合が誕生したのです。日本における労働運動の曙光です。高野房太郎と片山潜が指導してつくった鉄工組合の「盛岡工場26番支部」というところに目が止まつた。

私がこの「100周年記念講演実録」を読み進めていく中で、「高野房太郎とその時代 期成会の東北遊説」（二村一夫著作集）の中にもこう紹介されていた。

1898（明治31）年7月23日から8日間房太郎は期成会の同士とともに東北各地を遊説して回りました：一行4人、房太郎のほか片山潜、それに鉄工組合創立委員の高橋定吉と小笠原賢太郎でした。日鉄の機関士たちは、争議後に「日本鉄道矯正会」という労働組合的な組織を残すことに成功した：東北遊説がそれなりに成果を上げた：8月6日には日本鉄道盛岡工場に第26支部が結成された、と。

私の手元には、1985年12月1日廃止された旧国鉄盛岡工場の歴史を簡潔にまとめた「94年の譜」がある。この中に、「明治31年（1898年）8月 鉄工組合盛岡工場支部を設立」とあつた。かつての私が組合員だった国鉄労働組合の前身である「鉄工組合盛岡工場支部」は「日本鉄道機関方」たちの滴る汗と歯を食いしばった固い労働者の団結の中から生まれたということが良く分かった。



ストの後、鉄鋼組合第26支部が
結成された旧国鉄盛岡工場

もりおか歴史散歩の案内

県本部会長 牛山靖夫

風と遊び 風に学ぶ

でも、これだけは忘れてならない。権力は、高まる労働運動を取り締まるために1900年3月に「治安警察法」を制定し労働組合の弾圧に乗り出し労働組合を消滅させるために動き出したことも。そしてあの悪法中の悪法である治安維持法へつながっていく。

「日本鉄道機関方同盟罷工」の記念碑が、東北新幹線の八戸駅から南西に300メートルの場所にある。八戸駅前には、八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）と、その奥に駅前立体駐車場があり、駐車場敷地内の左隅に小さな公園のような所で、そこにUの字をかたどった石碑がある。「日本労働組合運動発祥之地」と刻まれている。

私はここに二度訪れている。最初は「本当かなあ……」と確かめるように、二度目は妻も同行した。これを読まれた方で興味ある方はぜひ 八戸まで足を運んでみてください。

〔二〕
白い杖をつきながら9月末に医労連の有志を案内した。11月にはいわて労連の労働相談所とローカルユニオンの一行を、「もりおか歴史散歩」に案内する予定である。

この間私は視覚障害者手帳（4級）の交付をうけた。濃い霧につつまれた状態で、目の前の人々の顔は見えないが、足元はボンヤリ見えるので歩くことはできる。そこで「小〇の旗」や説明用のファイルは参加者にお願いしての案内となつた。楽しかつたとの感想が寄せられたので、なんとか役目を果たせたようだ。

〔三〕
「風と遊び、風に学ぶ」歴史散歩は「千の風」が吹く、北山・寺町かいわいを一巡りする。道順は出発点（集合場所）によつて様々だが、時系列に整理をすると次のようになる。

中央の年末募金と会費納入のお願い

▼中央本部では年末募金「一口=1000円」を訴えています。

同盟は国際部までもつていて国連人権常任理事会等への働きかけもあります。しかし中央本部も専従体制がとれないため、ボランティアです。いろいろ大変ですが、中央の活動を支える募金にご協力をお願いします。

▼会費は年額4000円（3ヶ月で1000円）、家族会員は2000円の半額です。年内に2021年分の納入をお願いします。「不屈」岩手版を郵送している会員には「振替用紙」をお届けします。 岩手県本部

「小○の旗」を掲げ、要求は藩主の交代と重税は迷惑を柱に、諸業の民が心を一つに結んで勝利した。岩手の社会運動の源流である。

▼願教寺——自由民権運動で活躍した鈴木舍定の墓と顕彰碑がある。舍定は全国に例のない「国会手引草」を出版し、全国大会で憲法見込案の作成を呼びかけた。

▼正伝寺——内陸なのに明治29年の三陸大津波の供養碑がある。ここでは昭和8年の大津波で救援活動までが弾圧されたことを語っている。

▼報恩寺——五百羅漢で知られた寺だが啄木と賢治が詩や歌を詠んでいる。羅漢堂への回廊に田野畠村に建つ「一揆の像」の原型がある。

▼龍谷寺——啄木の父はこの寺で修業した。その時の住職の妹が啄木の母となつた。

▼清養院——賢治が下宿した寺であり、山門に「天氣輪」の塔がある。「銀河鉄道の夜」には「天氣輪の柱」の章がある。社会に目を向けた啄木と社会主義、賢治と労働農民党についても語る。

▼光照寺——反戦川柳人・鶴彬の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の句碑と墓がある。

▼恩流寺——原爆で散った女優、園井恵子の墓がある。

〔三〕

定番のコースは以上だが、少し足を伸ばすと、岩手で最初の社会主義思想団体・牧民会を結成した石川金次郎の顕彰碑（東顕寺）「本県無産運動によきにつけ悪しきにつけ多彩な足跡のこした」（昭和県政覚書）、横田忠夫と横田家の墓（教浄寺）

もある。また戦後、岩手に日本共産党が結成された場所は願教寺といわれている。

このように「千の風」といえ、三閉伊一揆、自由民権運動、明治三陸大津波、啄木と社会主義、社会主義運動の始まり（牧民会）、無産運動、賢治と労働農民党、治安維持法の弾圧と日中戦争（鶴彬）、原爆と敗戦、日本共産党の結成、というように、岩手の近現代史のあゆみの大筋を、

2時間半～3時間の散歩でたどることができる。

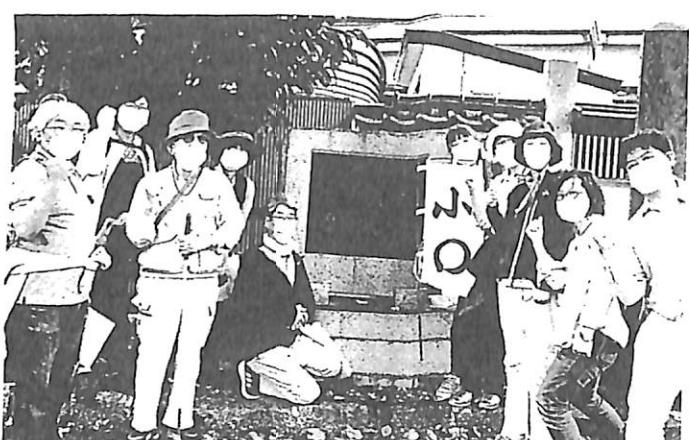
こんな場所は全国でも他にはないだろう。それだけに、この地の利を活用

して、まだ訪ねたことのないところへは足を運んでいただきたいと思う。

新しき明日をめざして弾圧された先人たちの

「風の声」を聞くなら

ば、きっと私たちの様々な活動のエネルギーとなるだろうからである。



鶴彬の句碑の前で

再度の訂正とお詫び
前号・前々号と斎藤佐智子さんの夫の名前を間違えてしましました。正しくは、「義雄」さんです。お詫びして訂正いたします。